

## 水替えの無い花屋？

画期的水質保持材によって花が長持ち！

説明)「白い棒」を差しておくだけで、何もしなくても切り花の水が腐らず、花も長持ちする画期的な水質保持材を開発し、複数のユーザーの実験によりその効果を確認しました。これまでは、水の中に防腐剤を入れたり、あるいは、切り花の切り口を消毒したりなど面倒な作業が必要で、それでも水が濁り、放っておくと花の寿命も短かったのに対し、今回、開発した「白い棒」を切り花の水に差しておくだけで花の寿命が延びます。

### 概要説明)

- 東北大学大学院環境科学研究科 久保拓也 助教、および細矢 憲 教授は、3年前から図1に示したような貫通孔が多くあるモノリスと呼ばれる「高分子多孔体」を京都工芸繊維大学 大学院博士課程学生 辻岡則夫 氏らと開発し、世界で初めて極めて構造の制御されたモノリスの開発に成功しました。
- このモノリスはいろいろな形に成形することが可能で、例えば図2のように棒状に成形した場合、その先端を空気中に出すように切り花の水に差しておく、何も入れない場合と比較して切り花の水が濁らず、また、切り花の寿命も延びることを見つけました。
- この白い棒、細かく折って水に漬けておいても効果は無く、モノリスに空いているたくさんの貫通孔が水を吸い上げ、水を腐らせる原因物質や、切り花の寿命を短くする「何か」を高分子で除去しているものと考えています。もちろん、普通の「スポンジ」では効果がありません。(別添図参照)
- あまりに安直な方法なので、色々な方に試して貰いましたが、やはり効果が確認出来ました。これを用いれば、例えば式典などに供せられる大花瓶の水の交換も必要無く、水換えの無い花屋も可能になります。この不思議な白い棒、値段も安く実用的に使えるものと考えています。

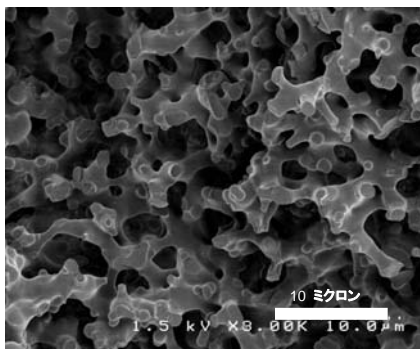


図1. モノリスの構造

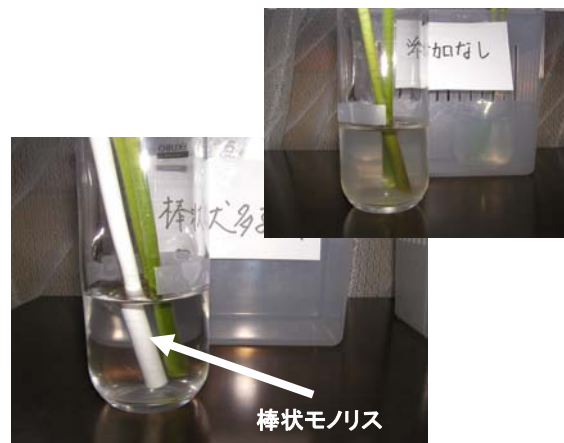


図2. 棒状モノリス添加と添加無し (右上)

お問い合わせ先) 東北大学 大学院環境科学研究科  
担当：細矢 憲 (教授) 電話 022-795-6333  
：久保拓也 (助教) 電話 022-795-7410

## 結果(カーネーション)



モノリス



スポンジ



何もなし

花瓶にモノリスを入れた花が一番活きがよい。